

校章・校歌・制服の方向性について

第3回開設準備委員会に引き続き、校章・校歌・制服の方向性について、それぞれの論点に基づき検討を行う。

【校章の方向性】**【校歌の方向性】****【制服の方向性】**




1 校章の方向性について

論 点

校章の方向性として、「新たな校章を制定する」または「統合対象校の既存の校章を引き継ぐ」のどちらが望ましいかという視点で協議する。

なお、新たな校章を制定する場合は、その制定方法についても協議する。

【4校の校章の状況】

金木高校	板柳高校	鶴田高校	五所川原工業高校
			
制定年：昭和28年 図案者：小山内謙次氏	制定年：昭和25年 図案者：竹浪謹爾氏	制定年：昭和49年制定 図案者：池田勇作氏	制定年：昭和38年制定 図案者：鈴木太左衛門氏
<p>■桜は日本国民と金木の桜を表し、翼は飛躍発展・真理探究への志と六ヶ町村（金木町外五ヶ町村学校組合立）の団結を意味する。</p>	<p>■豊かなリンゴの町板柳にある高校として「林檎樹に囲まれた高校を表したもので自然の恵みと人間の努力を表し、この良き環境の中で健やかに育ち、発展されることを念願する意味を込めてデザインされた。</p> <p>■校章の中の曲線はリンゴの枝を、上部中心の星形は未来の躍進と希望を表す北の星（北極星）を模したものである。</p>	<p>■純白の鶴が2羽寄り添って円形を描いているのは男女力を合わせて鶴田高校を盛り上げていく、純白には清廉・潔白・誠実ということ、右にも左にも偏らず、いつまでも力を合わせていくことを願いとして込めている。</p>	<p>■マークは工業を表し、左右の鋭い切り口は学問、技術に対する鋭さを表す。</p> <p>■上下の丸みは円で、人間形成の理想を表す。</p>

【校章制定の方法（他県等の事例から）】

- ①公募による制作
- ②デザイナー等への委託による制作
- ③学校関係者（生徒含む）による制作
- ④その他

【第3回開設準備委員会における主な意見（意見等記入票による意見を含む）】

方向性	主な意見
<p>新たに校章を制定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 統合校のスタートをスムーズにするには、校章も変えるべきである。 ○ 今回、五所川原工業高校の校章制定に至った理念等も伺ったため、岩木山、岩木川や、球体という理念を取り入れながら、新しく制定してはどうか。 ○ 新しく制定する方が良い。デザインに取り入れてほしい観点や視点を示すことで、委員の意見が生かされると思う。 ○ 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。新しい学校になるため、校名だけでなく校章も変わっていくのが当然ではないか。 ○ 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。既存の校章を使うという意見を尊重しつつも、統合校であるから新たな校章を望みたい。 ○ 校章については、各校の思いを汲み取れるようなデザインをデザイナーに委託した方が良い。校章だけは残し、それ以外は変えるというのは、逆に不自然である。統合校では工業科の学級数が多いことを考慮しながら新たなデザインで校章を制定すれば良い。 ○ 校名や新設校の目指す人財像を考慮しながら、全て新しくすべきである。 ○ 統合なので新たな校章を制定する。制作方法は公募またはデザイナー等への委託が考えられる。
<p>既存の校章（五所川原工業高校）を引継ぐ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校章だけは五所川原工業高校のものから変えないでいただきたい。例えば令和3年度のと看、五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍しており、その生徒たちは現在の校章を付けて様々な場面に出ていく。このような中で、校章が2つあるのは違和感がある。五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍している間の校章の取扱い等々についても考えていただきたい。 ○ 統合対象校の4校の思いが一つにまとまり、既存の校章にある丸みを帯びた球として引き継いでいくという方向でも良いのではないか。そして、工業を意味する「工」の字は、解釈を別にして学問と捉え、普通科で学ぶ学問、工業科で学ぶ技術、これらの厳しさを鋭さと解釈をすれば、これはまさしく統合校の象徴として十分ふさわしく、入学してくる生徒や学校関係者が誇れる校章である。 ○ 校章に関しては、五所川原工業高校が大事にしてきた理念があるということが分かった。校章はこのままで良いと思っているが、統合に際しての理念を付け加えていただければありがたい。
<p>校名により対応する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 例えば「五所川原工科高等学校」が選ばれたとすれば校章はこのままで良いと思う。一方で、別の校名になった場合、校名に「工」は入らないので、一新した方が良いと感じる。

2 校歌の方向性について

論 点

校歌の方向性として、「新たな校歌を制定する」または「統合対象校の既存の校歌を引き継ぐ」のどちらか望ましいかという視点で協議する。

なお、新たな校歌を制定する場合は、その制定方法についても協議する。

【4校の校歌の状況】

金木高校	板柳高校	鶴田高校	五所川原工業高校
作詞：横山 武夫 作曲：木村 繁 制定年：昭和43年	作詞：鈴木 文雄 作曲：長谷川良夫 制定年：昭和27年	作詞：山下 正義 作曲：本間 雅夫 制定年：昭和49年	作詞：明本 京静 作曲：明本 京静 制定年：昭和38年
北津軽の原ひろく 起き伏す山竝ゆく水よ 日は若き光にみち 胸ふかく希望はぐくむ あゝ我等思想けだかき 建設の道にむすびて 集うなり芦野ヶ原に	若草萌ゆる津軽野や 心を映す瑠璃の色 清瀬を永久の道として 学びの舎の明け暮れを 至誠の訓かしこみつ いのちの炎かきたてん	津軽野の沃野潤す 湖の波打つところ 携ひてわれら集へり 永遠の理想掲ぐる 誠実の群像 鶴田高校	岩木の山はいや高く 十川の水はいや清し 林檎花咲くみちのくに 「無限の可能」求めんと 集いて学ぶ友と我 おお五所川原工業高校
かざせり羽搏く鷹の羽の 虚空はてなき進取のしるし 據るよ伝統の誠実 新らしき時代に貫きたてん あゝ我等岩木の山の 厳しき息吹の子等ぞ はげまばや芦野ヶ原に	七重の雪に照り映ゆる 姿麗し岩木が嶺 その気高きを鏡にて 学びの舎の明け暮れを 文の林にわけ入りつ 理想の炬火うちたてん	天つ日に果実の輝きて 林檎樹の連なるところ 睦み合ひわれら学べり 故郷の未来を拓く 自律の群像 鶴田高校	学問と技術のきびしさを 円満きこころに溶かしつつ 明朗努力誠実もて 日に夜に進む人類の 科学にいどむ友と我 おお五所川原工業高校
	歴史に偲ぶみちのくの 巨き偉徳のかげふみて そよぐ緑の葉のごとく 身も魂も健やけく 三綱領をかしこみつ 学びの道につとめなん	高き嶺の流れに映り 山川の美しきところ 弛み無くわれら励めり 学び舎の和熟の三年 力行の群像 鶴田高校	白皚々の津軽野に 岩木おろしよ吹かば吹け 理想に燃ゆる若人の 意気天を衝く前進に 凱歌もたのし友と我 おお五所川原工業高校

【校歌制定の方法（他県等の事例から）】

- ①公募による制作
- ②作曲家等への委託による制作
- ③学校関係者（生徒含む）による制作
- ④その他

【第3回開設準備委員会における主な意見（意見等記入票による意見を含む）】

方向性	主な意見
新たに校歌を制定する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変えた方が良い。式典等の行事を考えると、校章よりも校歌が一番影響あると思うが、統合してから数年間は行事によって使い分けをし、統合から2、3年経過すれば不自然さは解消される。 ○ 校歌については、校名が変わるのであれば変わって当然だと思う。 ○ 4校の高校を1つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ない。 ○ 新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。 ○ 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。 ○ 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。 ○ 校名や新設校の目指す人財像を考慮しながら、全て新しくすべきである。 ○ 校歌は公募または学校関係者による制作により新たに制定する。

3 制服の方向性について

論 点

制服の方向性として、「新たなデザインとする」、「統合対象校のデザインを引き継ぐ」、「制服を制定しない（私服対応）」のどれが望ましいかという視点で協議する。

【4校の制服の状況】

金木高校	板柳高校
<p>■冬服（儀式的行事）</p> 	<p>■冬服</p> 
<p>■冬服（普段）</p> 	
<p>■夏服</p> 	<p>■夏服</p> 

鶴田高校

■冬服



五所川原工業高校

■冬服



■夏服（儀式的行事）



■夏服（儀式的行事）



■夏服（普段）※女子はベスト着用あり



■夏服（普段）



【第3回開設準備委員会における主な意見（意見等記入票による意見を含む）】

方向性	主な意見
<p>新たに制服を制定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変えた方が良い。制服については、中学校でも制服を変更した場合、1年生は新しい制服、2、3年生は既存の制服を着用することはある。 ○ 統合校の新入生は、制服等を一新することで気持ちを一新し、自分たちが歴史や伝統を築いていくという気概を持って教育活動に取り組んでもらい、そして、同時に在籍する先輩たちは五所川原工業高校の生徒として、統合校の生徒と接して切磋琢磨していくことが望まれる。 ○ 新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。 ○ 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。 ○ 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。 ○ 4校の高校を1つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ない。 ○ 校名や新設校の目指す人財像を考慮しながら、全て新しくすべきである。 ○ 制服については新たな学校であることを地域の人理解できるので、新たなデザインとした方が良い。
<p>既存の制服（五所川原工業高校）を引継ぐ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制服は五所川原工業高校のものを引き継いでも良いと思っている。経済的に困っている保護者の方もいる中で、制服を一新してしまうと、多くの家庭では制服のスペアも用意したいと思うが、その際に兄弟や卒業生から譲り受けるということができなくなる。